

症例報告 準備チュートリアル (2024 年度版)

積聚会

症例報告(および研究発表)は、自分の研究・症例から導ける考察を発表し、その意義を聴衆に理解・納得してもらうための機会です。そのためには、根拠をもって論証し、聴者に対して信頼性と説得力を持たせることが重要です。

1. 発表のテーマを決める

症例報告(および研究発表)では今まで報告されていない新たな知見を発表する。

会や会員の発展に寄与できるようなテーマを選ぶ。

主張したいことが複数あってもテーマを 1 つに絞る。特に、手を加える要素が複数あると、どの要素が結果に影響したか判断ができないので注意。

↓

- ・今まで報告がない難しい・珍しい症例

例:内臓逆位の患者に積聚治療を行った

- ・困難だった症例

例:高熱の患者の督脈に透熱灸したが効かなかった

- ・工夫を加えた症例

例:項部刺絡で変化がなかったけど別部位の刺絡が効いた

→抄録見本「シートベルト打撲に着目し眩暈を解消した症例」

- ・理論的に正しい新しいやり方を試行した症例

例:BL54 の反応に対する巨刺として、健側の BL54 に長鍼を刺鍼した

2.抄録を書く

聴者の興味・理解を得るため、発表内容を要約し簡潔にまとめる。

発表テーマに関係のある、「目的→結論」の流れに必要なことだけを載せる。

「である調」を使い、客観的な視点で書く。

1文1メッセージを原則とし、長文にならないように心がける。

その他の倫理規定や用語表記については、日本伝統鍼灸学会「投稿規定」(巻末に付録)に準拠する。

【タイトル】

発表のテーマを組み込んで端的に。

長くなりそうな場合はメインタイトルとサブタイトルに分けても良い。

【目的】

研究・発表を行う理由となる背景・目的を書く。

背景＝現時点で知られている一般的な内容(積聚治療の手順や理論など)
に対し、どのような疑問・課題・仮説があるのか。

目的＝発表する症例はその疑問・課題・仮説の検証に、どのようにアプローチするものか。

「患者さんに対する施術の目的」ではないので注意!

【症例】

患者の背景(年齢・性別・職業・初診日)・主訴・現病歴(発症日・発症後の来院日など)・既往歴・社会歴・家族歴など。目安としては腹部接触鍼前までに得られる情報。

患者が特定できないよう、個人情報の扱いに注意する。

【結果】

施術内容と経過(断りを入れた上で発症後から1診目として数えてもよい)を記す。考察のための材料として、読者が検証・追試できるような情報にする。自分の主張に都合の良い結果だけをピックアップするのは厳禁。自分の考えを述べるのは【考察】であり、【結果】では事実のみを時系列に沿って書く。

【考察】

【目的】で提示した疑問・課題・仮説に対する答えとして、【結果】の内容を基に自分の考察を論証する。ほとんどの読者が了解している一般的な知識(※積聚会内での発表の場合は、はりきゅう国家試験および応用 I コース修了程度)を除き、必ず主張の根拠(結果・出典など)を述べる。資料などが必要であれば追加する。自分の考察とは違う結論が可能かどうかも検討しておく。別の結論が導ける可能性がある場合、そちらを採用しない理由などを示す必要がある。

【結語】

【目的】と対になるような内容とする。最初の課題・疑問・仮説に対しての結論をまとめ、この発表が会・会員にどのように役立つか主張する。症例を検討したことによって新たに生じた課題・疑問・仮説などがあれば言及する。

【キーワード】

読者が内容を検索・把握しやすいように、自分の発表を特徴づける単語を 2～3 語ほど挙げる。

3.スライドを作る

口演がメインであり、補助・補足する資料としてスライドを用意する。

スライド1枚ごとに見出しとスライド番号をつける。

大きい文字(20pt以上、できれば32pt前後)で、背景に埋もれない色を使うのが基本。

文字数は最小限→箇条書きで7行程度、「目的→結論」の流れに必要なかつ不可欠なことだけを載せる。

枚数・文量の目安はスライド1枚辺り1分～2分。

質疑応答での問答を想定しておく、自分の発表内容の不明確な点の発見にもつながる。

文責：積聚会学術部

投 稿 規 定

I. 投稿資格

本誌への投稿は、共著者も含め本学会会員に限る。ただし編集委員会が認めた場合には、この限りではない。

II. 投稿内容

1. 本誌は、鍼灸医学ならびにそれと関連する領域の未発表の論文を掲載する。
2. 論文の種類は、原著、総説、研究報告、短報、症例報告、資料、その他とする。

III. 倫理規定など

1. 臨床研究などに関するものは、世界医師会のヘルシンキ宣言の倫理規定に準じ、患者又は被験者には研究内容についてあらかじめ十分に説明すること。また、患者又は被験者への同意は書面で行い、同意を得た旨を本文中に明記すること。
2. 論文は公開されることを踏まえ、患者個人が特定されないことのほか、個人情報の保護に十分配慮されたものとする。
3. 投稿論文の内容に関わる利益相反関係がある場合（例：公的研究費に基づく、研究費・特許取得を含む企業との財政的関係、当該株式の保有など）、本文の最後に関係する企業・団体名とともに明記すること。

記載例：・本研究は〇〇〇〇の資金提供を受けた。

- ・〇〇〇〇の検討にあたっては、〇〇〇〇から測定装置の提供を受けた。
- ・利益相反はない。

IV. 原稿の採否

原著・総説・研究報告・短報・症例報告の区分を希望する投稿論文の審査は編集委員会が委嘱した審査委員が行い、原稿の採否、掲載区分などは編集委員会で決定する。編集委員会は編集部により委嘱された委員により構成される。編集部および編集委員会は原稿に関し修正を求めることがある。なお、依頼原稿はこの限りではない。

V. 執筆要領

1. 原稿書式

- (1) 原稿は楷書による横書きの和文とし、常用漢字、現代かなづかい・ひらがな混じりの口語体を用い、常用されない漢字は避ける。ただし学術・専門用語はこの限りではない。難字は欄外にも楷書または字の形態を記すこと（たとえば引用として甲骨文字、篆書文字などを用いる場合）。
- (2) 学術・専門用語は一般に認められた用語を用い、特殊なものは避ける。用いる場合は必ず簡単な説明を加えること。
- (3) 外国語、外国人名・地名などは原語のまま用いるが、一般に日本語化している外国語はカタカナ表記とする。
- (4) 数字は算用数字を用い、単位は原則として国際単位系を用いる。

- (5) 外字又はJIS第1・2水準外の文字を使用した場合、本文中の該当する文字にマークをつけ、投稿時に該当文字が分かるもの（投稿論文のPDFデータ、該当文字の画像ファイルなど）を添付すること。
- (6) 本文見出しは、大きい順にI. II. …、1. 2. …、(1) (2) …、1) 2) …、①②…、a) b) …とする。
- (7) 原稿はパソコンのワープロソフト（WORD・一太郎等）を用いて作成すること。ページレイアウトはA4判の白紙に10.5ポイントの文字を用い、40字×40行として、1頁1,600字とする。
- (8) 病歴などの年月日は患者情報が特定されないよう配慮する（例えば、年を「X年」などすれば月日は具体的に記述してよい）。現病歴、所見、経過などの症例記載は過去形で記載する。
- (9) 鍼体の表記は鍼灸医学の国際化に伴い、下記の通りとする。
 使用鍼の毫鍼については、鍼長（長さ）と鍼径（直径）を以下のように表記する。
 長さについて 直径について（段階は1番ごとに0.02mmずつ増加する）
 （従来）→（新呼称） （従来） （新呼称）
 1寸 →30mm 0番鍼（14号鍼）→0.14mm
 1寸3分→40mm 1番鍼（16号鍼）→0.16mm
 1寸6分→50mm 2番鍼（18号鍼）→0.18mm
 例：「1寸3分、1番鍼」は「長さ40mm、直径0.16mm」となる。
 併記する場合は「長さ40mm、直径0.16mm（1寸3分、1番鍼）」となる。
- (10) 経穴の表記
 経穴については、『WHO/WPRO 標準経穴部位日本語公式版』に準拠すること。

2. 図・表・写真

- (1) 図・表・写真は本文とは別にし、それぞれ個別にプリントアウトしたものに加えてファイル提出する。Word等のワープロソフトのファイル内に貼り付けられた画像は印刷時に画質が低下することがあるので、ワープロソフトのファイルとは別に解像度300dpiでjpg形式に保存されたものを用意すること。著者原図が製版不適合の場合は専門家に修正、トレースを依頼する（Ⅷ、著者負担の項を参照）。
- (2) 本文中の図表番号とタイトルは、図の場合は下部に、表の場合は上部につけること。
- (3) 提出する図、表、写真のデータには表題・説明を付し著者名・図表番号（図-1、表-2など）を明記し、挿入位置を原稿中に朱書にて指示し、各ファイル名には表題等の内容の区別のしやすいものをつけること。
- (4) 論文に図表、写真、画像を含める際には、他者の著作権、肖像権を侵害しないように留意すること。掲載許可が必要な場合は、投稿者の責任において、あらかじめ著作権者から許諾を受けらるものとする。投稿者自作のものであっても、既発表のものについては著作権に配慮すること。

3. 文献や注

文献や注は、バンクーバー方式を参考にした下記方式に準じて記述すること。
 参考文献と本文の関連付けは引用順に行う。本文での引用箇所は引用順に参考文献の連番を肩

番号で振り、参考文献欄に連番順に参考文献を記述する。

なお、文献は投稿者が参照したものを記すこと。また、他文献からの孫引きはひかえ原文献を参照すること。

本文での肩番号は、「……¹⁾」「……^{2,3)}」「……^{4-8,13)}」などと表記する。

参考文献の記述は、下述の〔記載方法と例〕に従い記述する。なお、参考文献の著者名が4名以上の場合は最初の3名を記し、ほかは「ほか」「et al.」とする。起始頁-最終頁の記述は、上の桁で繰り返す数字は省略する。中国文献の場合は、常用漢字など日本の通用漢字による表記とする。

〔記載方法と例〕

・雑誌

著者名. 論文名. 誌名. 西暦発行年; 巻 (号): 起始頁-最終頁.

例: 1) 丸山衛士, 山下紘, 岡部素道ほか. 慢性肝炎の鍼灸治療. 日本経絡学会誌. 1978; 5(6): 21-3.

・単行本

著者名. 書名. 版数. 発行地. 発行所名. 西暦発行年: 起始頁-最終頁.

著者名. 書名. シリーズ名, シリーズ番号. 版数. 発行地. 発行所名. 西暦発行年: 起始頁-最終頁.

例: 1) 教科書執筆小委員会 (著), 日本理療科教員連盟, 東洋療法学校協会 (編). 新版 経絡経穴概論. 第2版. 神奈川. 医道の日本社. 2014: 2.

2) 郭霽春. 黄帝内経靈枢校注語訳. 天津. 天津科学技術出版社. 1989: 102.

・論文集 (単行本) 中の論文

著者名. 論文名. 編者名. 書名. 版数. 発行地. 発行所名. 西暦発行年: 起始頁-最終頁.

例: 1) 小林詔司. 圧痛点 (腹積) の変化は病症と相関する. 医道の日本社編集部 (編). 圧痛点と鍼灸臨床. 医道MOOKシリーズ, 001. 神奈川. 医道の日本社. 2008: 26-7.

・ウェブサイト中の記事

著者名. ウェブページの題名. ウェブサイトの名称. 更新日付. URL. (参照日付).

例: 1) 日本伝統鍼灸学会組織部. ポスター配布について. 日本伝統鍼灸学会. 2015-3-12. <http://jtams.com/?p=426>. (参照2015-11-26).

・古文献

著者名. 書名. 成立年や刊年または筆写年や奥書. 所蔵先. 請求記号. 巻. 起始丁表裏-最終丁表裏.

著者名. 書名. 成立年や刊年または筆写年や奥書. 編者名. 書名. 版数. 発行地. 発行所名. 西暦発行年: 起始頁-最終頁 (巻. 起始丁表裏-最終丁表裏).

例: 1) 曲直瀬道三. 鍼灸集要. 永禄6年 (1563) 道務写. 京都大学富士川文庫所蔵. シ/508. 5丁表.

2) 菅沼周桂. 鍼灸則. 明和4年 (1767) 刊. オリエン特臨床文献研究所 (監修). 臨床実践鍼灸流儀書集成, 10. 大阪. オリエン特出版社. 2004: 215 (2丁表).

3) 重広補註黄帝内経素問. 安政4年 (1857) 刊. 早稲田大学図書館所蔵. ヤ09_00549. 巻1. 6丁裏. 早稲田大学図書館. 古典籍総合データベース.

http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/ya09/ya09_00549/. (参照2015-10-15).

4. 漢文・外国語文献の引用

漢文や外国語文献の引用文は内容に応じて原文、訳文、書き下し文のいずれかを用いるものとする。原文の場合は該当する訳文または書き下し文を、訳文または書き下し文の場合は該当する原文を本文中または注に明示する。ただし、一読して疑問の生ずる余地がないものについては、省略してもよい。

VI. 投稿

1. 希望区分・要旨

論文の種別を下記の投稿区分より選択し、投稿表に記入すること。ただし、最終的な区分は編集委員会が決定する。

2. 投稿区分

(1) 原著論文

研究目的・意義が明確で、独創性があり、学術論文として基本的な形態を整えているもの。

邦文要旨 800 字以内、英文要旨 400 words 以内、邦文・英文キーワードそれぞれ 5 個以内。

(2) 総説

主題についての文献・論文を集め、総合的に整理し、意見・考察・検証など加えたもの。

邦文要旨 800 字以内、英文要旨 400 words 以内、邦文・英文キーワードそれぞれ 5 個以内。

(3) 研究報告

原著論文の審査基準を満たさないが、学術的に価値があるもの。邦文要旨 400 字以内、英文要旨 200 words 以内、邦文・英文キーワードそれぞれ 3 個以内。

(4) 短報

学術論文としての形態をなしていないが、新しい知見を含み速報性のあるもの。邦文要旨 400 字以内、英文要旨 200 words 以内、邦文・英文キーワードそれぞれ 3 個以内。

(5) 症例報告

鍼灸臨床例の報告。邦文要旨 400 字以内、英文要旨 200 words 以内、邦文・英文キーワードそれぞれ 3 個以内。

(6) 資料

原著論文、研究報告の基準に至らないが、鍼灸学に貢献する資料・データとして価値のあるもの。邦文要旨 400 字以内、邦文キーワード 3 個以内。

(7) 学術大会抄録

学術大会一般発表内容の概要。要旨不要。邦文キーワード 3 個以内。

(8) 読者の広場

読者個人による鍼灸に関する活動報告、随想など。要旨不要。邦文キーワード 3 個以内。

3. 英文要旨について

投稿前に native speaker による文章表現や字句の校閲（ネイティブチェック）を受け、その旨をカバーレターに記載し、また、英文校正証明書を原稿に添付し提出すること。

著者個人での英文要旨作成やネイティブチェック実施が不可能な場合は、編集部にその旨を通知すれば、編集部より助言を行う。

4. 原稿の送付

原稿は編集部宛にEメールで送付すること。

編集部Eメールアドレス：dento.henshu@jtams.com

- (1)必ず投稿表・著作権委譲承諾書に必要事項を記入し、それをスキャンして原稿に添付する。
- (2)本文（要旨、参考文献を含む）と図表はそれぞれ個別のファイルで保存する。
- (3)本文はMS-Wordまたはテキストで保存する。図表はカラー・モノクロともにPower Pointへの貼り付け保存か、個別にJPEGまたはPDF保存されたものとする。
- (4)ファイルの作成に使用したアプリケーション名とバージョン、また、コンピューターのシステムバージョンなどを記したカバーレターを添付する。
- (5)Eメールでの送付が不可能な場合は、学会事務局にその旨通を知すれば、郵送などの方法を知らせる。

VII. 校正

- (1)編集の都合により、原文の論旨を変えない範囲で修文・削除を加えることがある。
- (2)著者校正は初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改編やその他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日は厳守すること。

VIII. 著者負担

原則として、本文は全文字数20,000字、図表は計10点までの掲載は無料とする。

英文要旨翻訳、超過頁（組版および用紙代など）、すべての図・表および写真の製版、図の修正・トレース、別刷り、ワープロ原稿化、アート紙使用などに要する諸費用、写真・図・表の超過枚数分、カラー写真は1枚から著者の実費負担とする。

IX. 別刷り

別刷りは50部単位とし、実費著者負担により作製する。

別刷り希望者はカバーレターおよび原稿第1ページに別刷りを希望する旨および部数を明記すること。

X. 著作権

掲載された全ての原稿の著作権、及び二次的著作物の利用に関する権利・翻訳権・翻案権は日本伝統鍼灸学会に帰属する。

XI. 原稿の送り先

編集部Eメールアドレス：dento.henshu@jtams.com

(Eメールでの送付が不可能な場合は、その旨を学会事務局まで連絡すること)

XII. 学会事務局連絡先

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-18-18 日本医学柔整鍼灸専門学校内

Tel.03-3208-7741 Fax.03-3208-6488

担当：渡邊靖弘、天野陽介

2016年7月30日改訂